



さとがき

<http://www.satogaki-e.kofu-ymn.ed.jp/>

里垣小ホームページ

里垣小学校だより
令和元年9月25日
甲府市立里垣小学校
校長 松谷 ゆかり

「全国学力・学習状況調査」の分析結果の概要

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日(木)に全国の小中学校において実施され、本校でも6年生49名が参加しました。過日、その調査結果が公表されました。

本校では、「知・徳・体のより高い調和」を目指した教育活動に努めており、今回の全国学力・学習状況調査の結果は、本校の教育活動の現時点での評価と捉えています。

この結果を受けて本校では、指導方法の改善や校内研修の活性化に努めるとともに、概要ではありますが家庭や地域の皆様と結果について共有し、学校と家庭と地域が総ぐるみで、子どもたちの教育について考える機会にしたいと存じます。

全国学力・学習状況調査は、平成19年度から毎年度実施されており、調査の「目的」、「対象」、「内容」は次の通りです。

調査の目的

- ・全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策を検証し改善を図る。
- ・各学校、教育委員会において、全国的な状況との関係を通して、個々の児童生徒及び学校の状況を把握し、改善に努める。

調査の対象

- ・小学校6年生、中学校3年生

調査の内容

- ① 教科に関する問題: 下記1と2を一体的に問う。
 1. 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 2. 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

本校の学力・学習状況の結果と分析改善

学力調査の結果

本校の教科に関する問題の状況（全国・山梨県との比較）

本校の平均については、算数・国語とも全国平均とくらべてほぼ同等でした。

* 文部科学省では、平均との差が±5%を微差とし、「±5%は、ほぼ同等を意味する」としています。

		国語	算数
全国	平均	63.8%	66.6%
山梨県	平均	62%	66%

本校の「教科における主な課題」として、次頁にまとめました。これは、必ずしも県または全国の平均よりも低いものを示したものではありません。正答率が県・全国平均を上回っているものも含まれています。「教科における主な課題」には、本校として、正答率の低い傾向にある問題の趣旨を記載しました。

教科における主な課題

国語

- ・目的や意図に応じて自分の考えの理由をまとめて書くこと。問題①の三
- ・文章で使われている意味にあった漢字を書くこと。(同音異義語の誤り)問題①の四の(1)
- ・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと。問題①の四の(2)
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。問題②の一の(2)
- ・話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えをまとめたりすること。問題③の三

算数

- ・図形の面積の求め方の説明を言葉や数を用いて記述すること。問題①の(3)
- ・資料の特徴や傾向を関連付けて一人当たりの増減を判断し、その理由を記述すること。問題②の(3)
- ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること。 $(6+0.5\times 2)$ 問題②の(4)
- ・除法の意味について、小数の場合でも整数の場合を基にして理解すること。 $(180\div 0.8)$ 問題③の(4)

教科における具体的な取り組み

国語

① 書く能力を高めるために

- ・単元の中で意図的に要約する場面を設定し、何が大切であるか整理したりまとめたりする。
- ・大切なこと(キーワード)を落とさずに要約文にまとめる学習に取り組む。
- ・作文指導では、執筆後に自分や友達と読み返す時間を設定し、推敲する習慣を身に付けさせる。

② 読む能力を高めるために

- ・自由勉強の中に読書を記録する枠をつくり、読書の足跡を残すことで意欲を高める。
- ・問題文で大切なところに線を引かせ、何を問うているのかを正確にとらえるための学習を重ねる。

③ 漢字を書く力を高めるために

- ・教科書の単元で取り扱う読み方だけでなく、様々な漢字の読み方や成り立ちを紹介するなど、言語への関心が高まる授業づくりをすすめる。
- ・文章の中で正確に漢字が使えるように、習った漢字を使った短文づくりに取り組ませる。
- ・定期的に漢字の小テストを実施し、一人一人の定着度を把握し、個別指導に生かす。

算数

① 基礎的・基本的な知識・技能の定着のために

- ・既習事項を子どもの目に留まるように掲示するなど、既習事項の活用を促すとともに、活用の習慣化を図る。
- ・計算のきまり・公式など、基本的事項について計算練習等に繰り返し取り組ませ定着を図る。
- ・理解した学習内容を維持するため、プリント等で適宜、復習する機会を設ける。

② 表やグラフへの理解を高めるために

- ・他教科を含めて様々な場面をとらえ、表やグラフの資料から何が読み取れるかを考える時間を確保するとともに、友だちと考えを交流する機会を設ける。

③ 数学的な考え方を高めるために

- ・自分の考えを文章や式、図などでまとめたり、説明したりする場を意図的に多く設定し、思考力・判断力・表現力の向上に努める。
- ・割合の問題においては、「もとになる量」、「比べられる量」、「割合」の関係を正確に捉えられるように数直線からの立式を繰り返す。

実際の問題の一部を紹介します

国立教育政策研究所のHPに全問題、正答例等が掲載されています。よろしければ参照して下さい。

出題の趣旨
 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかみる。

正答例
 (なぜなら、)公しゆう電話は、主にけいたい電話を使うことができな^いときに必要とされていたり、きん急なときにも使う^ことができたりするからです。
 、地いきの人三十人を調査の^アたいしようとして、公衆電話は必要かどうかほとんどの人が必要だと回答しました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に^イが^カぎらず多くの友達に伝え、公衆電話について^ウかんしんをもっともらいたいと思います。

出題の趣旨
 文の中で、正しく漢字を使うことができる。

正答 ア：対象 イ：限らず ウ：関心

「公衆電話について」という報告文を読んで答える問題です。

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の [] に「2 調査の内容と結果」の (1)と(2)で分かったことをまとめて書いています。 [] に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)
 ○「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
 ○「報告する文書」にふさわしい表現で書くこと。
 ○書き出しの言葉に続けて、四十字以上、七十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。
 なぜなら、

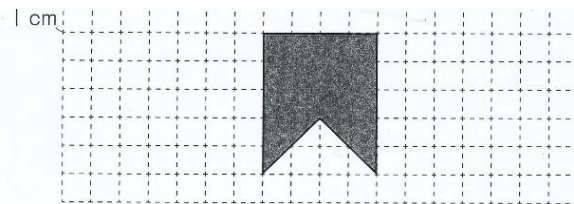
70字

【ちひろさんの求め方】

$$\begin{array}{l}
 5 \times 4 = 20 \\
 4 \times 2 \div 2 = 4 \\
 \underline{20 - 4 = 16}
 \end{array}$$

答え 16 cm²

【ちひろさんの求め方】の中の「20 - 4」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。



出題の趣旨

図形の面積の求め方の説明を図形と式を関連付け、記述することができるかみる。

正答例

- 20は、長方形の面積を表しています。
- 4は、三角形の面積を表しています。
- 20 - 4は、長方形の面積から三角形の面積をひいていることを表しています。

【かいとさんが考えた式】

$$6 + 0.5 \times 2 = \textcircled{7}$$



【かいとさんが考えた式】の、 $\textcircled{7}$ に入る数を書きましょう。

出題の趣旨

加法と乗法の混合した整数と少数の計算をすることができるかどうかみる。

正答

7

誤答の中では、6 + 0.5を先に計算したことから、13と答えた子どもが多かったです。

学習状況調査の結果

質問紙調査の結果から見られる主な特徴

本校児童の生活習慣や家庭学習などの状況から特徴として挙げられる点についてまとめました。

生活習慣

昨年度同様、全般的に高い水準です。就寝時刻を自分で決めて守れるようになると、学習習慣など様々な面でさらによい方向に向かうと思います。

全国と比較して、地域の方々とのふれ合いを少ないと感じている傾向があります。今後も地域学習等を充実させるとともに、地域行事への参加を呼びかけてまいります。

学習習慣

70%の児童が計画的に学習しています。

* 家庭での学習時間のめやすは、
10分×学年+10分です。

様々な情報をテレビやインターネットで取り入れる傾向が多くの子どもから見られます。読解力や表現力をさらに身に付けるためには、新聞を読む習慣も身に付けることが効果的です。

学校生活

「学校に行くのが楽しいと思いますか」の問いに、94%の子どもが「楽しい」と答えています。きまりを守り、いじめを許さない態度も備わっています。

人の役に立つ人間になりたいと思っている子どもも多いです。最高学年として、自分たちが里垣小を引っ張っていこうと意識を高く持ち生活しています。

自己評価

「将来の夢や目標を持っているか」の問いに85%の子どもが持っていると答えています。

「自分には、よいところがあると思いますか」の問いには、約70パーセント以上の子どもが肯定的に答えています。

課題を改善するために

本年度の調査結果についてポイントを絞ってお知らせしました。

子どもたちは毎日の授業や学校生活に一生懸命に取り組んでいます。その姿に応えるべく私たち教職員も、よりよい指導法や評価等の研究・研修を今後も進めてまいります。

結果からは、継続した取り組みが必要なこともわかりました。ご家庭の皆様には引き続き、以下の3点について、ご理解と子どもへのご支援をお願いいたします。

1点目は、家庭学習の時間の確保と内容の充実です。家庭学習の時間について、小学6年生なら最低でも70分、可能であれば90分間は確保したいものです。学校でも学習した内容を反復練習するような宿題だけでなく、子どもの興味・関心を生かした自主学習に取り組めるように指導をしていきます。

2点目は、ゲームやスマホ依存から子どもたちを守ることです。身近にあると、つい使い過ぎ、スマホやゲームに依存しすぎる危険があります。使用する時間や場所等について親子で話し合っルールを決めるとともに、日ごろから使い方について関心を持ち、必要に応じて声をかけるようにしていきましょう。

3点目は、世の中で起きていることについて関心を持たせることです。新聞を読み、テレビのニュース番組を見ることは、世の中の動きについて知るとともに、自分なりの考えをもつ絶好の機会となります。自分の考えを持つとする姿勢は、世界や社会についてだけでなく、自分や身近なことについて考えたり、友だちと話し合ったりする際の基盤となります。また、その後の進路や将来について主体的に向き合うためにも必要な生きる力となります。様々な場面で子どもに話題を投げかけ、考える場面を増やしていくことが大切です。

以上、学校と家庭と地域がともに意識していきたいことをまとめました。今後とも、互いが同じ方向を向き、協力し合い里垣小の子どもたちの健やかな育ちを支えていけますよう、引き続き里垣小教育へのご理解、ご協力をお願いいたします。